

惨事ミーティング用シナリオ(2026年3月組織4)

Aさん(42歳・男性・正社員・厨房リーダー)

勤続10年。アパレルからの転職。妻と10歳の娘あり。花粉症
ハンバーガーの焼き、ポテトのフライを担当。換気が不十分なため窓を開け、花粉が入ってくる中で、仕事を続けることに、店長に不平を表明していた。

ただ、42歳で、正社員なので、アルバイトへの指導的な役割でもあり、ほかの人の不満を抑えながら、仕事をしてきた。当日も、頭が痛くなったが、花粉症なのか、ガスによるものか、知識が十分でなく、判断できず、少し休みながら仕事を進めていた。鼻水や目のかゆみがひどいので花粉がひどいことは間違いない。店長に相談したが、「花粉のせいだ、俺もつらい」と言われて、そうかもと思った。

1時ごろどうしても、吐き気がしてたまらなかったので、またいったんほかの人に仕事を任せて休憩したが、元に戻らなかった。レジ裏の休憩スペースで戻ってしまった。座っていたところ、アルバイトのDとEに見られ、心配され、Eは、どうも知識があるようで、「花粉じゃなくガスですよ、救急車を呼びますよ」と言われたが、店長に言え、と止めた。

しかしEは、独断で救急車を呼んだらしい。その後に店長にEが報告したところ、怒られていた。自分のせいで怒られるのは申し訳ないので、店長には、怒らないでくれとお願いして場を収めた。Eは、消防にキャンセルの電話をした。そのあと、10分ほどして、救急車が来て、搬送された。消防士さんが、「一酸化中毒の恐れ」と言っていたので、そうだったんだ、と思った。リザーバーマスク(大きな袋がついたマスク)を顔に押し当てられ、『しっかり吸ってください!』と怒鳴られた。『自分は死ぬのか』と怖くなった。吸器をつけられたら、頭痛が少し収まったが、あの袋が膨らんだり萎んだりする映像やシュー、シューという音が今でも耳によみがえる。

その日は入院することになった。医師から、「もしかしたら、死ぬところでしたよ」と言われて、また怖くなった。

今は、キッチンに立つのが、ちょっと怖い。ただ、もう元気になっているのに、この弱気は情けない。叱りしなければと思う。しっかり店を立て直す必要があると思っている。

昨日から出勤し、事務手続きや、店の片づけをしている。アルバイトはおらず、店長と、Bと3人。あまり話はしていない。店長は辞めるような雰囲気。

店長を悪く思う気持ちはない。店長も俺と変わらない知識だけ。また、一緒に店を盛り上げていきたい。社長には、ケチを言わず、店の備品整備ぐらいいはしっかりしてほしいと思っている。ただ、給料はそこそこ良いので、店を辞めたいとも思わない。